



東京PCB廃棄物処理事業だより (No.37)

新所長着任挨拶と平成26年度東京事業所方針について

平成26年4月1日付で東京事業所の所長に就任いたしました 牧田 泉 と申します。
日本環境安全事業株式会社（JESCO）は、高濃度PCB廃棄物を処理するために全額国の出資で平成16年4月1日に設立されました。
この4月1日で丁度10周年を迎えましたが、処理完結までの道はまだ半ばです。
JESCOは全国に5事業所を設置していますが、東京事業所エリアでの処理は当初予定よりも遅れています。今後は、他の事業所とも連携しながら、安全確実に、そして一日も早い事業終了を目指して処理を進めてまいります。

平成26年度の東京事業所方針を以下に示します。

平成26年度 JESCO東京事業所方針

1. **安全で信頼される操業体制**の確立
2. 処理施設の**安定操業**の確保と**早期処理**、**計画的処理**の推進
3. **運転廃棄物等**の処理の促進
4. 処理施設の**長期保全計画**を含め、**処理完了までの枠組み作り**の推進



牧田東京事業所長

東京PCB廃棄物処理施設の運転状況について

平成26年1月～3月期及び平成25年度における処理実績は下表のとおりです。

区分	廃棄物の種類	1月～3月	平成25年度 累計	操業開始からの 処理累計
高濃度PCB廃棄物	トランス類	100台	472台	2,459台
	コンデンサ類	1,133台	6,091台	28,878台

* 処理に着手した台数を処理台数としています。

* 連結コンデンサは内部に含まれる台数でカウントしています。

* 低濃度PCB廃棄物については平成25年6月に処理を完了いたしました。

水熱酸化分解設備の一部配管における水蒸気噴出について

平成26年1月10日に発生し、前号でお知らせしました水熱酸化分解設備の配管の一部不具合による水蒸気噴出について、その後の経過を報告いたします。

原因は、水熱酸化分解設備室に3基設置されている水熱反応器のうち1基（No.2）の配管に約3mmの穴があき、そこから水蒸気が噴出したものでした。

原因① 昨年9月にスラリ処理を停止したことに伴い、配管内に残っていたスラリ(*)に起因する堆積物の下に塩素イオンが濃縮したと推定されます。

原因② 配管使用材料（インコネル690）は、150～250℃の温度域では耐食性の低下が認められますが、昨年9月のスラリ処理の停止により、①の現象と相まって腐食が発生したと推定されます。

原因③ 上記①、②の機構が動き出した時点で、スラリの堆積物に混在した銅の存在により腐食が急速に進行したと推定されます。

原因となる配管を取り外して閉止処置を講じると共に、水熱反応器3基の全配管について肉厚検査を行いました。その結果、一部の箇所において軽微な局部減肉が認められましたが、いずれも肉厚は管理基準値の範囲内であり、次回の定期点検の際に改めて確認すれば問題ないことが判明しました。

水熱反応器については、ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会東京事業部会での審議および地元自治体の了承を得て、No.3は平成26年2月18日、No.1は3月12日、NO.2は3月18日にそれぞれPCB処理運転を再開いたしました。

(*)スラリ：

「コンデンサやトランスの内部に使用されていたPCBを含む紙、木等をすり潰し、水と混合して泥状にしたもの」をいう。

東京PCB廃棄物処理事業環境安全委員会が開催されました。

平成26年3月5日、江東区東陽町にて第30回環境安全委員会（委員長：中杉修身 元上智大学大学院教授）が開催されました。

今回の委員会では、施設の操業状況として平成25年度の処理実績や環境モニタリング結果、運転や設備の対策として水熱設備の腐食対策の状況や発生したトラブルの対策、労働安全衛生管理の取組みや教育・訓練等について報告しました。

また、1月10日に発生しました水熱酸化分解設備の配管からの水蒸気噴出について、原因、配管の肉厚検査および運転措置等を報告し、ご理解をいただきました。

更に、環境省から「PCB廃棄物処理基本計画の変更について」の報告がありました。

委員からは、さらに安全対策を追及してほしい等のご意見をいただきました。



環境安全委員会の様子

総合防災訓練の実施について



総合防災訓練の様子

総合防災訓練を3月28日に実施しました。東京湾北部を震源とする震度5強、143カルの地震により、屋外IPAタンクの防油堤内で漏洩・火災が発生、との想定で実施したものです。

自衛防災組織の各本部毎に事前検討会を実施し、活動内容及び役割分担等の確認を行い、防災活動知識の向上を図りました。訓練は対策本部及び現地指揮本部の的確な連携のもと、混乱なく実施されました。

また、臨港消防署および東京都環境局による立会いの下に行われ有益な助言をいただきました。

今後とも、定期的に訓練を実施し、さらにレベルアップを図ってまいります。

首都圏広域協議会の開催について

平成26年3月19日、東京都庁にて第18回「首都圏広域協議会」が開催されました。広域協議会は1都3県及び9市で構成され、東京PCB廃棄物処理事業に係る広域調整に関して、安全の確保及び連絡調整を図ることを目的としています。

会議では、環境省からPCB廃棄物処理基本計画の変更についての報告があり、当社からは水熱酸化分解設備の一部配管水蒸気噴出トラブル、平成25年度の処理実績、処理の進捗状況および早期処理促進策などが、東京都からは平成26年度の1都3県の受入予定量についての報告がありました。

PCBの円滑な処理を進めるため、都県市間で有意義な意見交換がなされました。



首都圏広域協議会の様子

平成25年度の施設見学者数について

平成25年度は合計1,235人の方々に施設見学にお越しいただきました。見学者は、保管事業者の方、官公庁の方、学生、スーパーエコツアーの参加者、海外からの方などさまざまです。

平成25年度 見学者数

	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	1月～ 3月	合計
団体数	21団体	26団体	29団体	16団体	92団体
見学者数	253人	276人	457人	249人	1,235人

見学を希望される方は、下記の電話番号へお問い合わせください。



日本環境安全事業株式会社 東京事業所
〒135-0064 江東区青海三丁目地先（中央防波堤内側埋立地内）
TEL 03-3599-6023
<http://www.iesconet.co.jp/facility/tokyo/index.html>